

# 市長としゃべらんで

かわしま未来塾代表 兼  
川島えがお倶楽部代表

明石 眞和 氏 × 原井 敬 市長

## トーク 企画

対談日 10月11日



「市長としゃべらんで」第7回目の今回は、日ごろから地域活性化のために活動されている「かわしま未来塾」代表の明石眞和さんをお招きし、ふるさと「川島町」に対する思いや今後の抱負などを語っていただきました。

### 川島町の地域活性化のために

**市長** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。早速ですが、まず自己紹介を兼ねてかわしま未来塾を設立した経緯を教えてくださいませんか。

**明石** はい。私は生まれも育ちもすべて川島町です。平成16年に合併して鴨島や山川、美郷のように川島町も活性化させたいと思うようになりました。川島町で何を売りにしたらいいか、いろいろ考えたんですけど、川島町は昔、教育と文化の町をずっとつたてたんです。そのこともあって地域の子どもたちとともに地域を盛り上げていきたいと考えました。そのためにはイベントが一番いいかなと。イベントをした後に、いろいろなボランティアをしようという目標を立てました。そして「川島ふるさとまつり」を15年ぶりに復活させようということで、かわしま未来塾というボランティア団体を立ち上げました。さまざまなイベントを始め、一緒に町内のごみ拾いをしようとか、あすたむらんどに協力してもらって、子どもたちに星をみせてあげようとか、いろいろな文化的な行事が浮かぶようになってきました。一番は川島町の活性化という目的でかわしま未来塾を設立させてもらいました。

**市長** よく新聞などに活動が取り上げられていますよね。  
**明石** ありがたいことに、いろいろな知り合いがいて、協力してくれています。  
**市長** コロナが広まったときもいち早く川島城の前でメッセージボードを掲げられたり、地域に寄り添った活動が多いと感じます。

**明石** ありがとうございます。フットワークは、すごく軽いです。思いついたら動かんとおれん性格なんです。マスクが品薄の時期にはメンバーが手作りしたマスクを配りました。

**市長** そういうきめ細やかなところに手が届く活動をされていることが素晴らしいですね。団体だったら取りまための時間が必要で、アクションを起こすのに時間がかかったりしますけど、かわしま未来塾さんは本当に早いですよね。

**明石** 今何が必要なのかという情報を集めるために、いろんな人と交流させてもらってます。やりますと先に宣言して行動せなあかないように自分を追い込んでいます。(笑)

**市長** 残念ながらコロナの影響でふるさとまつりが昨年に引き続き中止となりましたよね。そうなる活動自体に間が空いてしまったりするんですけど、その間先ほどおっしゃられたようなきめ細やかな活動をしていくことは、つながりを維持していく上で大事なことです。

### 原井 敬 市長



だなと思います。  
**明石** ミニまつりを7月から毎月する予定だったんです。計画しては中止の繰り返しだったので、10月ができたらいなと思っっています。どこの学校も運動会はお屋まで、時間短縮のために親子競技をなくしてという話なんです。ほな、ミニまつりで親子競技をしようということで2種目考えて準備しています。しかも笑えるやつをね笑。  
**市長** かわしま未来塾さんはそういうソフトなところが届きますよね。



### 明石 眞和 氏

かわしま未来塾代表  
川島えがお倶楽部代表

**明石** メンバーがいいんです。私よりメンバーのほうが素晴らしくて能力があるんです。33人の会員と約30人のサポーターがいて、会員には市役所職員、教員、自営業、サラリーマンなど、異業種と幅広い年齢層の集まりなので、考えが偏らないんです。先生方の子どもを想う気持ち、公務員の計画的な考え方、自営業のイケイケの考えなど、それらを融合することで良いアイデアが生まれているんだと思います。利益誘導する人は一人もいないんで、それが一番のフットワークの良さかもしれませんね。  
**市長** おっしゃるとおりだと思いますね。僕も何度か参加させてもらいましたけど、いろんな職種の人がありますよね。

かわしま未来塾の活動をしていく中で課題も見えてきていると思いますが、そのあたりについて教えてくださいませんか。

**明石** やっぱコロナが一番の障害になってますよね。会を開いて、住民の方の意見を集約したいんですけど、接触する機会を失われちゃうんでなかなか本音が聞けないですね。どうやって住民の声を聞かかというのが一番の課題ですね。

**市長** 素晴らしいお考えですね。  
**明石** あとはコロナが収束してきたと

きにみんなの気持ちが一回落ちて力が合せてやろうということになるのかというのが不安です。自分の周りには密に連絡をとったりしてるんですけどね。

**市長** なるほど。わかりました。あと、「川島えがお倶楽部」という会社も立ち上げられたんですよね。それが、設立の経緯もお話いただけたらと思います。

**明石** かわしま未来塾を立ち上げて、自分たちの会費や、イベントで近隣の企業さんに出していただいた広告料でずっと維持してきたんですけど、資金が枯渇しました。資金が無くなったのでやめるというのはいけません。活動を維持しているのは悔しいので、お金などというところで、川島えがお倶楽部という合同会社を私が立ち上げました。そこで利益が出たらその利益をボランティア団体に還元したり、地元の小中学校に少しでも還元できたらいいなというのがこの会社の設立の目的だったんです。そうすると川島のことってこんなに一生懸命してくれるんやったらなんでも協力するということで、ボランティア的な気持ちで芽生える川島町の人がたくさん増えてきて、良い効果もだいぶ出てきました。川島町には学駅という入学時のパワースポットがありますので、地元で獲れたお米を「入学米」という名前で作って売ろうということ、今取り組んでいる最中です。

